

农业日语自修读本

金 成 一 等 编

A stylized illustration of several green leaves, some in a darker shade and others in a lighter teal shade, overlapping each other. The leaves are elongated and pointed at the tips, with simple outlines and no detailed vein structure.

农 业 出 版 社

农业日语自修读本

金成一 薛庆林 崔振泽 编
方哲勋 林明鲜
金润植 审校

农业出版社

农业英语自修读本

金成一 薛庆林 崔振泽 编
方哲勋 林明鲜

金润植 审校

* * *

责任编辑 阎芹

农业出版社出版（北京朝阳区枣营路）

新华书店北京发行所发行 通县向阳印刷厂印刷

787×1092mm 32开本 5.5印张 115千字

1990年5月第1版 1990年5月北京第1次印刷

印数 1—745册 定价 3.45元

ISBN 7-109-00702-2/S·535

前 言

为了满足我国农业科技工作者和农业大中专院校师生自修日语和阅读、翻译日文农业科技书刊的需要，我们编写了这本农业日语自修读本。本书也可作为农业院校日语教学的参考教材，同时，对出国留学生、研修生、考察人员提高日语水平也有较好的参考价值。

本书以农学为主，还有牧医、园艺、植保、蚕桑、多种经营等方面的内容，共24课。此书是从日本国内最新出版的农业科技书刊中摘录汇编而成的。为了便于自学，日本汉字均标注了假名，每课课文后附有生词、语法注释和参考译文。

生词按课文中出现的先后顺序排列，并标有音调记号，注明词类和词义。语法注释包括句型分析、惯用句的注释，力求准确、易懂。为节省篇幅，语法注释中的例句只举一两例。

本书在编写过程中，承蒙日本青森县西目屋村教育委员会的三浦猛先生和延边农学院日语教研室全体教师的大力帮助，在此深表谢意。

由于我们水平有限，错误之处在所难免，恳请批评指正。

编 者

目 录

第一課	日本の農業	1
第二課	苗の種類と育苗法	9
第三課	深層追肥	15
第四課	稲の本田管理	22
第五課	水稻收穫適期の判定と収量の推定	30
第六課	大豆	38
第七課	そば	45
第八課	薬用ニンジン	51
第九課	花卉	58
第十課	薬草	66
第十一課	青森野菜	73
第十二課	害虫退治は病気にさせて	80
第十三課	新しい営農技術	85
第十四課	大豆と伝統食品の歴史	92
第十五課	リンゴ栽培技術の概略	10 ¹
第十六課	果樹園の望ましい土づくり	109
第十七課	マメコバチ飼育のしおり	115
第十八課	土壤微生物の種類と形態	123
第十九課	タバコの黄変管理	129
第二十課	化成肥料について	136
第二十一課	食品加工の原材料	142
第二十二課	農業遺伝子工学	150
第二十三課	キノコ	157
第二十四課	優良繭の計画的生産の推進	165

第一課 日本の農業

日本の農業の中心は水田で米をすることです。日本の耕地の58パーセントは水田です。しかし、最近、日本人はあまり米を食べなくなつたので、米があまりになりました。

日本は南北に細長く、気候にも変化がありますが、米は今ほとんど全国で作られています。都市のそばでは野菜作りがさかんです。

日本には、約500万戸の農家があり、農家の人口は約2300万人です。そのうち、実際に農業で働いている人は750万人です。

日本は山地が多く、耕地が570万ヘクタールほどしかありませんので、農家一戸当たりの耕地の広さは1ヘクタールほどです。これはアメリカ合衆国の1/50、ヨーロッパ諸国の1/10ほどです。このようにせまい農地では、農業だけで生活するのがむづかしく、農業以外の仕事もしている兼業農家が90パーセント近くもあります。

農業以外で収入を得るために、農家の父親や若い人は都会へ出かせぎに行きます。そのため、農業をしている人の60パーセント以上が30歳以上の女子か、60歳以

上の男子です。このような農業をどのように改善していく
かが、今後の日本の農業の大きな問題です。

日本ではむかしから米が作られていましたが、北海道で
米作りが行われるようになったのは、そんなに以前から
ではありません。

暖かい地方の植物である稲は、北海道では育たなかつ
たし、本州でも、東北地方や雪の多い地方では、たびた
び冷害にあっていました。夏になっても気温が上がらない
と冷害になって農民の生活はほんとうに苦しくなります。
それで、寒さに強い品種の研究がされ、1946年
ごろから改良された品種で米作が行われるようになりま
した。

また、種をまいた後、苗床をビニールなどでおおって保
温し、苗をじょうぶに育てるように米作技術の改良も行
われました。それで、今では、東北地方や北海道でも米が
たくさんとれるようになりました。

日本では、所によって気候が非常にちがうので、各地
の気候を利用して、多様な野菜作りが行われています。

黒潮が流れる太平洋に面した四国の高知平野では、冬、
暖かく晴天が多いので、冬の野菜作りがさかんです。米
の収穫が終わった畑や海岸の砂地で、ビニールハウスを
利用して、ピーマン・きゅうり・なすなどが作られ、大阪
や東京方面へ出荷されています。

また、中部地方の高原では、夏のすずしい気候を利用
して、はくさい・キャベツ・レタスなどの野菜を作ってい
ます。これらの野菜は、秋から冬にかけて作る野菜です

が、高原^{こうげん}は夏でもすずしいので、それを利用して作るのです。夏でもすずしいような所^{ところ}は、交通^{こうつう}が不便^{ふべん}で、以前^{いぜん}は、とれた野菜^{はこ}を運ぶ^{つぎ}のが大変^{たいへん}でしたが、今では、トラックで運ばれ、とれた次^{つぎ}の日^ひには、東京や大阪の市場^{いちば}に出るようになったので、高冷地農業^{こうれいちのうぎよう}もさかんになったのです。

日本では果物^{くだもの}も種類^{しゆるい}が多く、みかん・りんご・ぶどう・かき・なし・ももなどいろいろあります。

みかんは、中部地方^{ちゅうぶ}以南^{いなん}の太平洋^{たいへん}に面した日当たり^{ひあたり}のいい山^{やま}の斜面^{しやめん}で作られています。りんごは、青森県^{あおもりけん}・長野県^{ながのけん}が主な産地^{さんち}で、今食^{いまた}べられているりんごは、明治時代^{めいじ}に、アメリカ人が苗木^{なえぎ}を移植^{いしよく}し栽培^{さいばい}したものがはじまりです。ぶどうは、雨^{あめ}の少ない中部地方^{ちゅうぶ}の甲府盆地^{こうふぼんち}でたくさんとれます。

このほかにも、かき・なし・ももなどが各地^{さいばい}で栽培^{さいばい}されていますし、沖縄^{おきなわ}のパイナップル^{やまがた}、山形^{やまがた}のさくらんぼなど^{めいじ}も有名^{しだい}です。

生 詞

あがる〔上(が)る〕④(五自) 上。上升。

あたり〔当(た)り〕③(造語) 平均。毎。

あまる〔余る〕②(五自) 余。剩。剩餘。

える〔得る〕①(下一他) 得到。

おおう〔覆う・被う〕④(五他) 覆盖。蒙上。

おこなう〔行う〕④(五他) 进行。实行。举行。做。

かき〔柿〕④(名) 柿子。柿树。

かけて④(連語) 从……一直到。秋から冬にかけて。

- キャベツ〔cabbage〕①(名) 甘蓝。
- きゅうり〔胡瓜〕①(名) 黄瓜。
- くるしい〔苦しい〕③(形) 苦。困难。艰苦。
- ごろ〔頃〕①(接尾) (时间、日期)前后。左右。时候。
- さかん〔盛ん〕④(形動) 盛。旺盛。繁荣。盛大。积极。热烈。
- さくらんぼう〔桜ん坊・桜桃〕④(名) 樱桃。
- さむさ〔寒さ〕④(名) 寒冷。冷的程度。
- しゅっか〔出荷〕④(名)(自他サ) (货物)运出。(商品)上市。
- じょうぶ〔丈夫〕④(形動) 结实。健壮。坚固。健康。强健。
- そのうち〔其の内〕④(副) 其中。不久。过些日子。近日。
- そば〔側・傍〕④(名) 侧。旁边。附近。
- たびたび〔度度〕④(副) 常常。几次。再三。屡屡。
(名) 屡次。反复。
- ちがう〔違う〕④(五自) 不同。不一致。不一样。
- つよい〔強い〕②(形) 耐(寒)。强。有力量。有本事。刚强。(寒さに強い)
- でかせぎ〔出稼(ぎ)〕④(名) (日本农民)短期离乡出外做活、外出挣钱(的人)。
- トラック〔truck〕②(名) 卡车。载重汽车。
- とる〔取る〕④(五他) 收。取。摘。采集。
- ながれる〔流れる〕③(下一自) 流。淌。
- なし〔梨・梨子〕②(名) 梨(树)。
- なす〔茄・茄子〕④(名) 茄子。

パーセント [percent] ③ (名) 百分率(%)。
 パイナップル [pineapple] ③ (名) 菠萝。凤梨。
 ハウス [house] ① (名) 暖房。暖窖。温床。
 はくさい [白菜] ③ (名) 白菜。
 はこぶ [運ぶ] ④ (五他) 运送。搬运。
 はたけ [畑・畠] ④ (名) 旱田。旱地。
 ピーマン [法piment] ① (名) 圆辣椒。
 ビニール [vinyl] ② (名) 乙烯树脂。塑料。
 ひろさ [広さ] ① (名) 宽度。幅度。
 ぶどう [葡萄] ④ (名) 葡萄。
 ほとんど [殆ど] ② (副) 几乎。差不多。
 ほんとうに [本当に] ④ (副) 真。很。特别。
 まく [蒔く・播く] ④ (五他) 播(种)(種をまいた後)。
 また [又] ② (接) 又。并且。同时。
 みかん [蜜柑] ① (名) 柑桔。
 めんする [面する] ③ (自サ) 面向。面对。面临。
 やさい [野菜] ④ (名) 蔬菜。
 りんご [林檎・苹果] ④ (名) 苹果。
 レタス [lettuce] ① (名) 莴苣。

语 法 注 释

1. 「あまり……ない」为惯用型。意为“不大……。不太……。不很……。”

◇この辺りには野菜をあまり栽培しない。 这一带不大种植蔬菜。

2. 「しか……ありません」为惯用型。意为“只有……。仅仅……。”

◇あの農家は豚を五匹しか飼っていない。 那户农家只养五口猪。

3.「作られる」是“作る”的被动式。意为“被栽培”。但译成汉语时，“被”字可省略。

◇米は今はほとんど全国で作られています。 现在全国几乎各地均出产稻谷。

4.「改善していく」中的“していく”是サ变动词“する”的连用形，下接补助动词“いく”构成的。“いく”作补助动词时，表示动作由近及远的移动或延续。意为“……下去。……过去。”

◇気温がだんだん下っていく。 气温逐渐降下去。

5.「……から……にかけて」是惯用型。意为“从……到。由……。”

◇四月五日から10日にかけての実習は農村でやったんだ。 4月5日到4月10日的实习是在农村进行的。

译文

日本的农业

日本的农业是以生产米为主，58%的耕地是水田。但近年来日本人吃米在减少，因此米出现了过剩。

日本的国土南北狭长，各地气候的差异很大，尽管如此，全国几乎各地均出产稻谷，而城市的郊区则盛产蔬菜。

日本全国大约有500万户农家，人口为2,300万左右。其中实际参加农业劳动的人为750万。

日本山地甚多，耕地面积只有570万公顷左右，每户农家平均只占有耕地1公顷左右。这个数字只够美国的五分之一，欧洲各国的十

分之一。在如此狭小的耕地上，单凭农业为生是很困难的。因此从事农业以外劳力的兼业农户将近90%。

为了获得农业以外的收入，农家的户主和青年人农闲时离乡外出到城市里去打短工。因此常年从事农业的人，有60%以上是30岁以上的女人和60岁以上的男人。如何改善农业此种状况，已成了今后日本农业的一大难题。

日本从很古的时候起就开始种植水稻，但北海道生产大米的历史却很短。

水稻是适于在温暖地区种植的植物，因此以前不仅在北海道不能栽培，甚至本州的东北地区和多雪地带也屡屡遭受冷害。有时到了夏季气温不升高，仍有冷害威胁，农民的生活就要发生困难。后来经过研究试验，逐渐培育出了耐寒品种，并从1946年开始采用改良新品种种植水稻。同时，播种以后用塑料薄膜覆盖秧田的方法保温，培育壮苗，实现了水稻生产的技术革新。正因如此，现在不仅在东北地区，而且在北海道也都能生产大米了。

在日本，利用不同地区气候差异大的特点，因地制宜地进行多种蔬菜的生产。

面朝太平洋的四国高知平原，由于受黑潮暖流的影响，冬季气候温暖，多晴天，故这里的冬季蔬菜生产也十分兴旺。在收割完稻谷的田里和海岸边沙土地上，到处搭起塑料大棚，进行甜椒、黄瓜、茄子等生产，供应大阪、东京等地。

其次在中部高原地区，则是利用夏季的凉爽气候，生产白菜、甘蓝、莴苣等蔬菜。这几种蔬菜本来只能从秋季到冬季之间生产，现在利用高原凉爽的气候条件，夏天同样可以生产这类蔬菜。以前这一带虽然气候凉爽，但由于交通不便，蔬菜生产出来外运很困难。现在的情况不同了，摘下来的蔬菜用大卡车第二天就可以运往东京、大阪。就这样，高寒地区的农业也就发展起来了。

在日本，水果种类繁多，有桔子、苹果、葡萄、柿子、梨、桃等。

桔子种植在靠太平洋一侧的阳光充足的中部地区以南山地斜坡

上。苹果主要产在青森县、长野县。现在我们吃的苹果最早起源于明治时代美国人引到日本来的苗木。葡萄盛产在雨量较少的中部地区的甲府盆地。

除了这些，柿子、梨、桃等各地均有栽培。冲绳的菠萝、山形的樱桃也都颇有名气。

第二課 苗の種類と育苗法

田植機で植える苗でも、色々な種類がある。これらの苗は、たねまきの際の密度に違いがあり、苗の長さ・葉の数（葉齢）・苗の体重（茎葉乾物量）・育苗日数（たねまきから田植までの日数）が異なっている。稚苗は厚まきされるので、長さ・体重・葉数が小さく、育苗日数も短い。稚苗の密度でたねまきしたものは中苗の体重と葉齢には達しえない。稚苗の育苗日数を延ばしても、枯れ葉の数が多くなるばかりである。

何事も綿密な計画が大切だが、稲作でも同様である。田植の時期を前も、て決めておき、それにあわせて苗の種類とたねまきの日を決定する。

中苗を使うなら、田植の 30 ～ 45 日前にたねまきをし、稚苗を使うなら、田植の 15 ～ 20 日前にたねまきをするように心掛ける。

昭和 55 年・56 年と二年続いた北日本の冷害で威力を発揮したのがポット苗である。

ポット苗の長所としては、苗の葉数が稚苗や中苗に比べて多いし、活着が速く、植えいたみが少ない。それに田植直後の低温に強く、出穂も早いなどがあげられている。

稲が出穂するまでに出す葉の数はほぼ決まっているから、田植時の葉の数が多き苗は、本田で出す葉の数が少な

くですむ。だから、早く出穂できることになる。つまり、
稚苗よりはポット苗の方が早く出穂する。

低温の場合には、どんな苗を植えても出穂が遅れるが、
そのような場合にもポット苗の出穂が早くなっている。

ポット苗のいたみが少なく、活着が早い理由には、苗取り
りと田植の際に根のいたみが少なくてすむことと、苗の体内
の貯蔵デンプンが多いことが関係している。

田植した直後にひどい低温が襲来すると、苗が活着
できずに枯れてしまうことがある。事実、昨年、北海道の
稲作北限地帯では、そういう実例が少なからず見受けられ
た。

冬山で遭難した時には、十分な装備と食糧をもって
いた者が生き残り、空腹に耐えられなくなった者が先に世
を去ってゆくようである。苗の場合、田植後の低温に耐え
るための食糧は体内のデンプンだといってよい。これを
多くもっている苗は新しい根を出してゆく力が強いし、
低温に耐える体力ももっている。

いま述べたように、ポット苗は北海道、東北のような寒
い地帯の水田とか、高冷地の水田で卓効があり、また、前
作物にタバコ、麦、野菜を作ったために、田植時期が遅れ
る場合にも役に立つ。しかし、稚苗を使つても、10 a 当
たりで 600 キロとか 700 キロといった高い収量をあげ
られる所では、稚苗で充分間に合うのである。

稚苗だと苗箱の数は少なくてすむし、育苗の日数も短
かり。苗代の面積も小さくなるから、ハウスで育苗する
にしてもビニール・鉄骨などの資材費が少なくてすむ。育

ひよう ろうりよく さつやく
苗の勞力においても節約になる。

したがって、どういう種類の^{しゆるい なえ}苗を使うかは、おのおのが^{かんが}よく^{けつてい}考^{つか}えてから決定すべきである。

生 詞

あげる〔挙げる〕⑩(下一他) 收到。得到。增加。提高。

あつまき〔厚播き〕③(名) 密播。

あわせて〔合わせて・併せて〕③(副) 并。对照。一并。
同时。

いきのこる〔生(き)残る〕⑩(五自) 幸存。活下来。

いたみ〔傷み〕③(名) 损伤。损害。(水果等)腐烂。

おのおの〔各・各各〕②(名・副) 各自。分别。

きまる〔決(ま)る〕⑩(五自) 决定。规定。定。

キロ〔法kilo〕①(名) 千。(本课是キログラム的略语)
公斤。

くらべる〔比べる・較べる〕⑩(下一他) 比。比较。

ころがける〔心掛ける〕⑤(下一他) 留心。留意。记
在心里。

ことなる〔異なる〕③(五自) 不一样。不同。

さい〔際〕(名) 际。时。

したがって〔従って〕⑩(接) 从而。因而。

すむ〔済む〕①(五自) 完了。终结。

たうえき〔田植機〕③(名) 插秧机。

たえる〔耐える〕②(下一自) 耐。经得起。

たっする〔達する〕③(自サ) 达到。到达。

タバコ〔葡tabaco・煙草〕④(名) 烟草。烟叶。香烟。